

生駒市食育推進会議 第3回会議録（要旨）

1．日時 平成20年2月13日（水）午後1時30分～午後4時

2．場所 セラビーいこま

3．議事内容

（1）生駒市食育推進計画原案について

事務局から計画案を説明

生駒市食育推進計画のポイント

基本理念 「みんなで食を楽しめるまち いこま～毎日できることからはじめよう～」

目 標 「市民一人ひとりが食に関心を持とう」

健康づくり推進事業の展開

食育月間の啓発

生活習慣病予防教室等の充実

朝食欠食をなくす啓発

歯科検診時の指導充実

食品表示の見方啓発

「楽しく食べることができるよう、小さい頃から正しい食習慣を身につけよう」

「わ食の日」を創設

(和やかな食事、家族みんなで輪になっての食事、からだにマルな食事、和食)

パパママ教室等の充実

学校等での食育の推進

「みんなで食を楽しむ環境づくりを応援しよう」

食育ボランティアの養成

地域の伝統文化を知る機会づくり

食育コーディネーターの設置

農業体験の機会の提供

今後の進め方

「食育ラウンドテーブルの設定」

食育は多くの分野からの支援が必要あり、各種団体等が同じテーブルについて、取り組みの検討、調整、進捗把握する。

「食育キャンペーン窓の広報活動の充実」

食育月間、わ食の日

「運営委員会の設定」

市役所での食に関する関係部署との横のつながりの強化し調整を進める。

委員による質疑

食物アレルギーについて

- ・ 近年、子どもの病気でアレルギーが増えており、食物アレルギーも増えている。また、小学生になっても除去が必要な子どもについては、クラスでいじめにあうことがないよう、周りが正しい知識をもって接する必要がある。計画書原案の「食べ物の安全性に関心を持ちましょう」の主な取り組みのところに、食物のアレルギーに対する正しい知識の普及について追記して欲しい。
- ・ アレルギーについて勉強する機会や栄養士が相談に乗る機会は必要だと思う。勉強する機会があれば、栄養士との協力によるアレルギー対応のおやつ作りなど、アレルギーの子どももそうでない子どもも同じものを同じように食べられる場をつくっていきたい。

- ・小学生になっても除去が必要な人は少なく、アレルギーといっても個人によって対象や程度が異なるため、難しい問題である。それでも、皆で楽しく食べるというコンセプトを打ち出している生駒市の計画では必ず関係するテーマなので、相談機会の提供はぜひ書いて欲しい。
- ・情報過多の中で母親が混乱し、制限する必要がないのに制限しているケースもあるため、正しい知識を身につけてもらう機会は必要である。
- ・乳児の育児相談でのアレルギーに関する相談対応や、赤ちゃんや幼児のアレルギーに対する窓口対応は、行政ですでに実施しているので、知られていないようであればPRが必要である。
- ・保育園では、コピー食をつくって見た目には同じようにして食べさせる等、一人ひとりのアレルギーに完璧に対応しているので、そのノウハウを発信できればと思う。
- ・アレルギーの改善に成功した経験談を公表していくことで、アレルギーを持つ人の参考情報になると思う。
- ・アレルギーを環境問題の一つとして捉えて、それをふまえて生駒では自然を大切にし、それが食育にも繋がると書いた方が良いと思う。

事務局の回答

- ・計画書の中では、アレルギーに関する正しい知識の普及を行うということを追記し、具体策についてはラウンドテーブル等の今後の取り組みの中で考えていきたい。
- ・良い環境がそろって初めて作物ができるが、環境として捉える範囲を広げてしまうと計画書の対象範囲が大きくなってしまうので、食育推進計画としては食の環境に絞りたいと思う。

計画書を書く視点について

- ・高齢者の急増、ベッドタウン、自然環境、すばらしい歴史といった生駒市の特徴をふまえた計画にするべきである。
- ・住みやすい住宅都市、環境都市を目指すという市長の方針をふまえた計画にするべきである。

取り組みの内容について

- ・計画書原案で書かれている取り組みは形式的で総花的である。現時点で5年後のビジョンをある程度は描いた上で、ハード・ソフト両面で取り組んでいくべきである。また、もう少しシンボリックな取り組みが欲しい。

中高生と成人の課題について

- ・ライフステージ毎の課題の中で、成人と中高生の課題が薄いと思う。これまで推進会議で課題としてあがっていたことを追記して欲しい。
- ・成人については、支援される側としての高齢者の課題と、夜遅くにならないと20~30代が地域に帰ってこないなどという課題が書かれていないので追記して欲しい。また、成人の課題をいくつかの世代で分ける等して、自分のこととして受け取りやすい書き方にするべきだと思う。
- ・中高生については、子どもの頃と比べて、親が食べるものに関して干渉できないので、それを背景とした課題もあると思う。
- ・中高生になると、友達づきあいが活発になり、外食や下校時の食事が出てくるので、それに対

する指導等も必要だと思う。

- ・ 中高生の課題は、箇条書きで2点にまとめられているものの、様々な内容が含まれているので、これを書き下していけば良いと思う。

事務局の回答

- ・ 中高生の課題については、小学生時の課題を継続して抱えているものもあると考えられるため、小学生の課題を精査して追記する。
- ・ これまでの推進会議では、中高生に関する課題はあまりあげられていなかったもので、アンケート調査結果やワークショップでのご意見等から課題を追記したい。

食育を推進する担い手について

- ・ 「小さい頃に正しい食習慣を身につけましょう」に対する主な取り組みのところで、学校食育推進部とあるが、学校の先生だけに負担がかからないように、保護者や地域の人々にも協力して頂く体制が望ましいと思う。
- ・ 食育コーディネーターは誰が担うのか。

事務局の回答

- ・ 数値目標の中には、「食育に関心のない市民の割合の減少」や「食育ボランティアの団体数」という項目を入れている。
- ・ 学校食育推進部については、「学校、幼稚園及び保育園における食育の推進」の学校・園、保護者、地域の人々による取り組みとは別に、学校側の取り組みとして書かせて頂いた。保護者や地域の人々に協力してもらうための体制については、食育コーディネーターを活用して整備していきたい。
- ・ 食育コーディネーターは、将来的には食育ボランティアの中から育てて頂けたらと考えているが、当面は健康課が担当する予定である。

「わ食」(仮称)について

- ・ 「家族や仲間との『わ食』の日」を目標の記述のところに書いてはどうか。
- ・ 「わ食」の取り組みは、2つ目の目標「楽しく食べることができるよう、小さいころから正しい食習慣を身につけましょう」に位置づけられているが、「正しい食習慣」というのと違和感があるので、3つ目の目標「みんなで食を楽しむ環境づくりを応援しよう」に位置づけた方が良いと思う。
- ・ 家族みんなで楽しく食べることで、正しいマナーが身につく、偏食をなくすことにつながるので、「わ食」と「正しい食習慣」は相反するものではない。
- ・ 「わ食」の日が第3日曜となっているが、日曜が休みでない人もいるので、これを基本としながらも月に1回そういう日を持ちましょうということにした方が良いと思う。
- ・ 「わ食」の日は、生駒らしい数字で日にちを決めても良いと思う。
- ・ 家庭で使えるシール等をつくって、「我が家の『わ食』の日を決めよう」というキャンペーンをしたら良いと思う。

- ・「わ食」の日は、事業者も巻き込んでキャンペーンを行うなどして盛り上げられたらと思う。
- ・「わ食」の名称は、ひらがなにしておくことで様々な意味をもたせることができるので、これでいいと思う。

事務局の回答

- ・2つ目の目標は家族での取り組み、3つ目の目標は地域での取り組みを応援することを指しているので、「わ食」の位置づけは現状のままとさせて頂く。
- ・「わ食」の日は、後で日付を設定することもできるので、計画書の中では「月に1回」という表現にする。具体的な日付はラウンドテーブル等で決めていく。
- ・「わ食」の日を推進する上では、大規模の店舗だけでなく、小規模の店舗の協力も求めて、共に取り組んでいきたい。
- ・「わ食」は正式名称とさせて頂く。

目標の記述について

- ・3つ目の目標「みんなで食を楽しむ環境づくりを応援しよう」の「応援しよう」という言葉は、自分たちで取り組むイメージではないので違和感がある。

事務局の回答

- ・3つ目の目標は「みんなで食を楽しむ環境づくりを進めよう」に変更させて頂く。

地産地消について

- ・大阪府の都心部と違って、生駒では自分の土地で作った野菜を食べることができる。自給的農家が多く、生産量は足りないかもしれないが、地場産野菜に関する活動等、今後取り組むことができるように、計画書の中に地産地消に関する記述が欲しい。

事務局の回答

- ・計画書の中には地産地消に関する活動として、「地場産野菜の学校給食への提供」、「消費者と生産者の交流」として、地場産野菜の提供の機会確保や情報提供、農業祭での地場産物の試食会について書いている。

その他

- ・パブリックコメントに出す計画書については、分量をコンパクトにした方が良いと思う。

事務局の回答

- ・コンパクトにし過ぎると全体の流れが不自然になってしまうので、調整しながらある程度のボリュームは出したいと考えている。
- ・食育の面で理想的な家庭や、食事にまで制約がかかることに不満を感じる成人には、この計画書は受け止めてもらえないかもしれないということを、考えておく必要がある。

事務局の回答

- ・ 食育基本法の裏づけとして日本の食生活における課題があり、生駒市の食育推進計画もアンケート調査結果等から明らかになった食生活の課題をふまえた内容にしているため、その点ご理解頂きたい。

以上